

# つながる力

《No. 21》



**知事「横暴負けない」 不承認支持、県民集会に800人** 辺野古

玉城デニー知事は4日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の移設先として政府が埋め立てを進める名護市辺野古で県民集会に参加した。玉城氏は「国はあらゆる手段を使って進めようとするだろう。しかし絶対に横暴に負けてはいけな」と政府を批判。軟弱地盤の判明を受けた政府の設計変更申請を不承認としたことを「絶対に受けけない」と玉城氏は、キャンペーンのゲート前に集まった県民ら約800人を前に、「見切り発車で始まった不法な埋め立てだ。何度でも行政指導を发出する」と、政府に反対する姿勢を重ねて強調した。知事周辺には、玉城氏が辺野古での集会に参加するのは、土砂が投入された翌日の2018年12月15日以来約3年ぶりで、移設反対を掲げて当選して以来3回目という。集会はオール沖縄会議が主催。県選出の国会議員らのほか、来年1月23日に控える名護市長選に移設反対を掲げて立候補した同市議の岸本洋平氏も参加した。岸本氏は「私の亡き父岸本建男は、沿岸家は論外だと言ってきた。完成の見通しの立たない工事は直ちに止めるべきだ」と訴えた。

2021. 12. 5  
沖縄タイムス1面



辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前で開かれた集会で、あいさつする玉城デニー知事＝4日午前、名護市



集会に参加したオール沖縄の国会議員ら＝4日午後、名護市辺野古

沖縄県知事の  
辺野古埋立て工事変更申請  
「不承認」を  
断固支持します

## 《目次》

辺野古ゲート前に響く「不承認支持！」	・ ・ ・ ・ ・	國分賢司	2
知事不承認についての声明 カンパのお願い	・ ・ ・ ・ ・	辺野古土砂全協	3
辺野古阻止への切り札 設計変更申請不承認 北上田毅さん講演録	・ ・ ・ ・ ・	末田一秀	4～7
北九州市 北九州市議会「遺骨土砂採取をしない」意見書採択	・ ・ ・ ・ ・	八記久美子	8
三重県津市 玉城知事の「不承認」に呼応し緊急チラシまき	・ ・ ・ ・ ・	柴田天津雄	9
熊本県宇城市 宇城市議会「遺骨土砂を使用しない」意見書採択	・ ・ ・ ・ ・	鈴木慶子	10
沖縄・本部町 勝利した八重岳の闘い	・ ・ ・ ・ ・	原田みき子	11
「鹿児島への旅～総会開催地視察に同行して」	・ ・ ・ ・ ・	牧瀬 茜	12
沖縄訪問記 沖縄南部の土砂搬出地との連携を!!	・ ・ ・ ・ ・	阿部悦子	13
「基地問題こそ争点だ」(21.12.9琉球新報・論壇)	・ ・ ・ ・ ・	浦島悦子	14
《沖縄からの便り その15》 名護市長選勝利を	・ ・ ・ ・ ・	浦島悦子	15
インフォメーション 辺野古土砂全協第9回総会、鹿児島市で開催	・ ・ ・ ・ ・		16

写真提供 國分賢司 八記久美子 柴田天津雄 鈴木慶子 原田みき子 牧瀬茜

# 辺野古ゲート前に響く「不承認支持！」

沖縄県 國分賢司

11月25日に玉城知事が沖縄防衛局の「設計変更申請」を不承認としたことへの支持が沖縄県内外で広がっています。12月3日、沖縄県庁前に約500人が参加して「知事の決断支持、県民今こそ立ち上がろう」と声を挙げました。また、東京ほか全国各地で「不承認支持！新基地NO！」と新基地建設に反対する声が広がっているのです。



12月4日、コロナ危機のため自粛していたオール沖縄の辺野古ゲート前県民集会在一年二か月ぶりに開かれました。参加者は800人。ゲート前テントに収まりきらず、基地側の歩道にも横断幕やバナナを持った人が溢れました。参加した玉城知事は「変更承認申請には正当な事由が認められない。埋立ては見切り発車で始まった不法な埋立てである」と強調し、「国はあらゆる手段を使って辺野古の埋立てを進めようとするだろうが、国の横暴に負けてはいけない」と力強いメッセージで政府と対決していく姿勢を明らかにしました。



大浦湾の軟弱地盤は「埋め立てが始まる3年前の2015年の段階で、地質調査した業者から地盤に問題があると沖縄防衛局が報告を受けていた」ことを11

月28日の沖縄タイムスが報じました。防衛局は不都合な事実を隠ぺいしたまま、工事を強行したことが明らかになったのです。政府が軟弱地盤の存在を認め、地盤改良が必要と表明したのは、19年1月のことでした。そのうえで、昨年4月に「地盤改良工事」を含む「設計変更承認申請」を出してきたのです。

知事の「不承認」理由には、軟弱地盤が海面下90mまで広がっているのに必要な調査がなされていないことを挙げています。軟弱地盤による「護岸倒壊の危険性」は消えていません。

また、来年1月23日に行われる名護市長選挙に立候補予定の岸本洋平氏が、新基地建設反対の決意を表明し、同日選挙の南城市長選挙で再選を目指す瑞慶覧ジョービン市長も決意表明をされました。



沖縄防衛局は7日、「不承認」とされたことへの対抗措置として、行政不服審査法に基づく審査請求を国土交通相に提出し、不承認の取り消しを求めました。国が国の審査請求を判断する茶番が、また繰り返されようとしています。玉城知事は「国交相は内閣の一員として辺野古新基地建設を推進する立場で、公平公正な判断を行うのは不可能」と政府の対応を強く批判しました。

私たちはあきらめません。沖縄の暮らしと平和を守る決意をますます固くしています。「不承認支持、新基地建設阻止」の波を、全国の人々とともに大きなうねりにしていきたいと思ひます。

# 辺野古新基地建設事業・公有水面埋立変更に係る 県知事の不承認についての声明

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

マヨネーズ並みと言われる軟弱地盤の存在が明らかになったことに伴い沖縄防衛局から提出されていた辺野古新基地建設の公有水面埋立変更申請について、本日、玉城デニー知事は不承認とする決定を下した。

私たち、土砂搬出候補地の市民及び団体のネットワークである辺野古埋立土砂搬出反対全国連絡協議会は、昨秋沖縄県が審査にあたり実施したパブリックコメントでも、申請書が生物多様性の重要性を無視していること、外来生物の侵入による沖縄島固有の生態系破壊を食い止める対策が示されていないこと、地盤改良工事のための大量の海砂採取・調達は沖縄島周辺の海域や響灘の生態系破壊につながることを理由に、不承認とするよう求めてきた。今回の知事の決定を歓迎したい。

不承認の理由をみると、上記の論点について直接言及はされていないが、環境保全上や災害防止上の十分な対策がされていないことなどとされている。決して辺野古新基地建設に反対するための政治的な思惑からなされたものではなく、軟弱地盤に関する必要な地盤調査すら行わなかったことが理由である。無理筋の変更内容から申請の不承認は必然であったのだ。

沖縄防衛局は、不承認決定を受けて直ちに進行中の工事を中止すべきである。

私たち土砂全協の地元から土砂を運び出すなどという追及によって、変更申請では戦争で多くの死者が出た沖縄本島南部地区から全体の7割を採取することが目論まれていた。遺骨混じりの土砂で基地を作るという非人道的な計画に辺野古新基地への賛否を越えて批判が集まっていたが、不承認によっていったん白紙に戻ることになる。基地建設のための埋立に沖縄県内外の全ての候補地で一粒の土砂も採取させない取組みを私たちは継続していく。

これまで国は私人に成りすまして不服審査請求を行い、大臣が処分を取り消すなどの不当な地方自治介入を行ってきた。今回も提訴など決定を覆そうとする行為を厳に慎むべきである。

2021年11月25日

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は、玉城デニー沖縄県知事の11月25日の「不承認」決定を受けて、以上の声明を同日付で発出し、沖縄県庁県政記者クラブに届けました。

## 本部・名護の島ぐるみ会議に支援のカンパをお願いします

辺野古土砂全協は2015年5月創立から7年目になりました。ひとえに全国の個人会員・支援者のご支援に支えられてきました。あらためて皆様のご支援に感謝申し上げます。

21年11月、玉城知事が「不承認」を決定したにもかかわらず、本部町から埋立て用土砂の搬出を強行、本部町島ぐるみ会議は連日抗議行動を続けています。また、22年1月には名護市長選を控え、辺野古新基地反対を公約に掲げる候補者を支援して、島ぐるみ会議・名護が全面的に勝利をめざし闘っています。辺野古土砂全協団体会員、本部・名護の島ぐるみ会議に支援カンパをお願いします。

同封振込用紙に「本部・名護支援」とご記入のうえ、支援カンパをお寄せください。

# 「辺野古阻止への切り札 設計変更申請不承認」

辺野古土砂全協顧問 北上田毅さん 講演録 (2021.12.2 於：名古屋市)

まとめ 辺野古土砂全協顧問 末田一秀

11月25日にデニー知事が軟弱地盤に伴う設計変更申請に対して不承認の決定をしてくれました。知事としては、決して許されないという思いをぶつけてくれたと思っています。知事は、「政府が十分な説明を行わないまま一方的に、強権的に埋立工事を強行する姿に、不安、憤り、悲しみを感じている」と述べていて、行政のトップが公式の場で「不安、憤り、悲しみ」と口にすることはほとんどないと思うが、自分の思いを述べてくれた。「完成の見通しが立たず、事実上、無意味な工事をこれ以上継続することは許されない」と述べていて、今の工事をどうやって止めていくか、不承認で万歳では済まない。

## ◆設計変更申請の審査経過と審査基準

2020年4月に申請が出されて、1年7カ月経過しています。前回の6倍に当たる2万通近い意見書が寄せられた。記者会見でも知事はこの意見書の数を強調されていて、多くの反対意見が不承認の大きな役割を果たしたと思っています。

この間、沖縄県は4回にわたり452件の質問をしており、多くの核心的な問題が不承認の理由になるかと思っていたら、理由は絞り込まれていた。

### 知事の不承認理由(2021.11.25 『不承認通告書』)

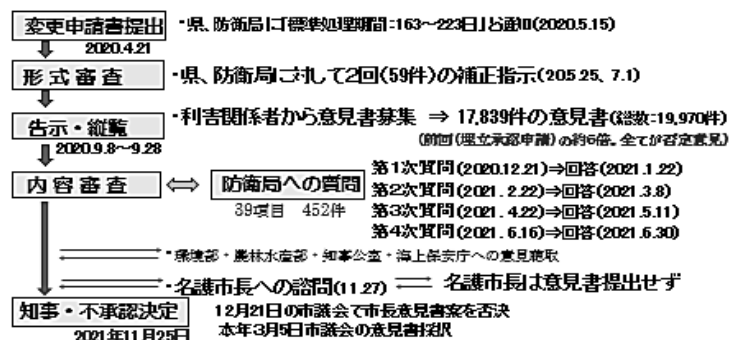
1. 変更承認申請に「正当の事由」があると認められない  
・変更の内容・理由がやむを得ないとは認められない。
2. 「埋立必要性」について、合理性があると認められない  
・不確実性が生じており、普天間飛行場の危険性の早期除去にはつながらない。
3. 「国土利用上適正且合理的なること」の要件を充足しない(4条1-1)  
・災害防止に十分配慮した態様がされておらず、「埋立の位置」について合理性があるといえない。
4. 「環境保全及び災害防止に付十分配慮」の要件を充足しない(4条1-2)  
\*環境保全・ジュゴンへの影響について  
・地盤改良に伴う盛上り箇所の影響  
\*災害防止・B27地点の力学的試験の必要性について  
・地盤条件が適切に設定されておらず、地盤の安定性が判断できない  
・水深70m以深の地盤改良の実績がない・20mの未改良部が残る

不承認の理由を要約すると、公有水面埋立法の4条1項2号に環境保全及び災害防止に十分配慮しているかどうかとあって、埋立承認の時の審査基準だが、この観点から判断されている。環境保全では、ジュゴンへの影響が強調されている。地盤改良に伴う盛上り箇所の影響は、今まで話題になっていなかったの、最終の理由になるとは思っていなかった。

災害防止では、大浦湾の一番深いところでケーソン護岸が並ぶわけだが、そのB27地点という90mまで軟弱地盤が続いている最もポイントとなる地点でボーリング調査がやられていない。その前後でやっているのになぜかと再三防衛局に質問したが、4回にわたる全ての回答で「その必要はない」と拒否し続けた。この問題が今回の最大の問題です。今後

の法的争いでも、この点が最大の争点になる。今まで新潟大学の立石名誉教授らがケーソン護岸が倒壊する危険性を指摘してきたが、今回の不承認理由では、安定計算が成り立たないとは言っていない。その判断が成り立たないにとどまっている。それと、水深70m以深の地盤改良の実績がないことが挙げられている。これらが主たる理由。

### 設計変更申請の審査の流れ



審査基準は、法で定められていて4条以降でも6項目あるが、知事の理由は第2号の環境保全及び災害防止に配慮されているかにとどまっている。

仲井真知事が承認した時の書類をみると、法の基準以外に通知に基づき審査する項目として「法に全て適合している場合であっても、公益上の観点から承認すべきでない」と判断すべき特別な事由がないか」が挙げられている。つまり知事には総合的に判断する裁量権がある。しかし、今回はこの点について審査していない。私たちは、南部の遺骨問題は人道上の問題で、公益上の問題だから不承認の理由に明記してほしいと要請してきたが、入らなかった。

2,200頁ほどの設計変更申請書のうち申請書本文は19ページにすぎない。あとは添付図書で、添付図書に設計概要説明書や環境保全図書がある。これから法的な争いになったときおそらく国は、添付図書は知事の承認不承認の対象ではないと言ってくる。設計概要で示されていた大浦湾側ではなく辺野古側から工事を進めてきたことについて、県は再三指導をしてきたが、防衛局は添付図書に書かれていることだから知事の承認事項ではないと主張してきた。これがおそらく大きな問題となってくる。県が埋立承認した時の留意事項で、添付図書の変更をする場合は知事の承認を受けることとしていて、法的な根拠ではない。

#### ◆不承認理由を詳細に見ると

不承認通知書は、沖縄県のHPにそのまま出ているので是非見てほしい。

最大の論点では、「水面下約90mまで粘性土が続いているB27地点で三軸圧縮試験等の力学的試験を行わず、最大750m離れた3地点からせん断強さを類推しており、地点周辺の性状等を適切に考慮しているとは言い難い」とし、そのことによって「災害防止に十分配慮しているとは言えない」としている。

2018年3月に私が情報公開請求をして軟弱地盤問題が明らかになったが、その時はB26とB28が線で結ばれ、海面下70mまでの軟弱地盤とされていた。その後の追加調査で、B27地点は90mまでの軟弱地盤と判明した。防衛局は、70mよりも深い粘性土は

同じ粘性土でも「非常に硬い粘性土」だから地盤改良の必要はないと主張している。本当の理由は、海面下70mよりも深いところを地盤改良することが技術的に不可能だからなんです。B27地点の強度は、離れた3地点のボーリング結果を持ってきて、同じ地層が続いているとして、3地点のデータで類推をしている。この問題を県は4回にわたって防衛局に質問している。

先日の報道によれば、軟弱地盤の調査自体は2015年から行われていたが、その当初の段階から業者と防衛局の打合せ簿に「物理試験の結果、当初の想定土層と大きな差異があることや、土木的問題が多い地層が厚く堆積している」「粘性土が比較的深い深度に厚く堆積しており、長期の圧密沈下の問題が考えられる」と記載されて、軟弱地盤を把握していたことが明らかになった。2018年の段階でも以前から分かっていたはずだと追及したが、それが具体的に明らかになった。当初の計画ではできないことを県にも報告せず、公表もせずに工事を続けてきた。



地盤改良工事の実績がないについては、「韓国では海面下70mまでの地盤改良の実績があるが、それ

以深については、これまでに施工実績がないことから、現時点における技術力では施工できないものと考えられる」と書かれている。国内の実績は、海面下 65m までの横浜ふ頭。70m まで施工できる船は 1 隻しかない。

盛り土というのは聞きなれないと思うが、地盤改良で密集して砂杭を打つと、その分、土は押し分けられる。今回の防衛局の説明では、盛り土は高さ 14m にもなるという。下が軟弱地盤で盛り上がったものだからヘドロのような弱いものだ。普通は撤去することが多いが、今回は盛り土のところも地盤改良の対象にしている。理由では「地盤の盛り上がり環境に及ぼす影響について適切に情報が収集されていない」とされている。サンゴの移植は地盤改良の範囲だが、盛り上がりはスロープのようにその外側に及ぶので、そのことを考慮していないというのです。今まであまり指摘されていなかった。

ジュゴンについては、個体 A・C が行方不明、個体 B の死亡が確認されている。ところが、2020 年 2 月以後、工事施工区域内でジュゴンの鳴音が連続して確認された。こういった変化が生じているにもかかわらず調査がされていないことが不承認の理由とされている。県は、鳴音データの提供を何度も求めたが、防衛局は拒否し続けており、そのことも不承認の理由とすべきだったと思う。

これまでに多くの問題が提起され、県も防衛局への質問で取り上げてきたが、今回の理由に入っていないものがたくさんあることは指摘しておきたい。

## ◆不承認に対する国の対抗措置は？

国は行政不服審査請求をするだろうが、ご存知のとおり国民の権利救済の規定でそれを国が私人に成りすましてやる。行政法学者らから批判が集中したが、承認撤回の 1 件は最高裁で敗訴確定、もう 1 件については 12 月 15 日に福岡高裁で判決が出る。今の裁判所は辺野古については何でもありの常識外の判決が重ねられている。

今までは同時に執行停止がついていた。撤回の執行停止がされると仲井真知事の承認が有効になっていた。今回は不承認の執行停止をしても不承認がなくなるだけで承認になるわけではない。これまでと全く違う状況。11 月 26 日に琉球新報に掲載された武田真一郎成蹊大教授の見解でも、「国交相が不承認を取消しても承認されたことにはならず、国は変更設計の工事をすることはできない」とされている。国の取りうる手法のもう一つは、地方自治法に基づく「是正の指示」で、サンゴ特別採捕の時に使われたが、「是正の指示が行われた場合、知事は取消し訴訟を提起する。しかし設計変更の承認は知事の裁量行為であり、簡単には違法と判断できない。むしろ是正の指示が違法となる」と指摘されている。

## ◆問題は工事が継続されていること

11 月 25 日に不承認になっても 26 日以降も工事が継続されている。12 月 1 日からは新たな護岸からの土砂の陸揚げも始まっている。松野官房長官は 26 日に「現在、進めている工事に関しては、すでに承

## <不承認通知書で指摘された以外にも多くの問題が>

— 県から防衛局への 4 回の質問事項は解決したのか？

1. 「災害発生のおそれ」に関して
  - ・波浪条件について(1,2,3)
  - ・B27 地点の力学的試験の必要性(1,2,3)
  - ・Avf-c 層と Avf-c2 層の区分について(1,2,3)
  - ・護岸の安定性(1)、地盤の安定性(1)
  - ・地震への対応(K-net データ、地震観測期間)(1,2,3)
  - ・施行期間、施行順序(1,2)
2. 「環境保全」に関して
  - ・土砂による水の濁り(1,2,4)
  - ・先行盛土(トレミー方式)による拡散防止策
  - ・サンゴ類の生息環境(1)
  - ・ジュゴンの鳴音のデータ提供(2)
  - ・地盤改良工による環境への影響(1)
  - ・南部地区からの土砂搬出車両による騒音・振動・粉じん問題。観光への影響(2)

- ・土砂調達には島ごとの多様な生態系の評価(1)
- 3. その他
  - ・大浦湾には 1 日に 100 隻の作業船が集中(1,2)
  - ・埋立土砂・石材の搬入計画(1,2)
  - ・埋立必要理由書との整合性(2)
  - ・安全保障環境等の変化と現状(1)
  - ・陸上自衛隊との共同使用問題(1,2)

\*他にも、活断層、先行盛土、A 護岸造成をめぐる疑問、作業船の調達問題等、疑問点が多い  
\*遺骨混りの土砂は「公益上の理由」に該当

(注) 県からの質問事項と防衛局の回答は、まだ、すべてが公開されていない。

認をされている事案ですので進めていく」と述べている。不承認の時に知事は「今般の変更申請が不承認となった以上、防衛局は大浦湾側の工事を行うことができず、結果として埋め立て工事全体を完成させる見通しが立たない状況となる。埋立工事が周辺環境に与える影響は甚大であり、かつ不可逆であることからすると、事実上無意味なものとなる可能性がある埋立工事をこれ以上継続することは許されない。防衛局は、今回の計画変更に関する工事のみならず、全ての工事を中止すべきだ」と強調されている。

まだ県は工事を中止するよう行政指導をしていないが、早急に行うべきだ。

国は、工事は順調に進んでいるというが、8月末段階で土砂の投入は全体の約7.8%にすぎない。このペースで行くと何年かかるか分からず、国は焦っている。今年度予算では、変更申請が承認されないとできない地盤改良工事等が214億円も計上されている。さらに今年度の補正予算で801億円の追加がされたが、詳細が不明で今後追及していく。

岩国基地の埋立をめぐる裁判で、2013年11月13日に広島高裁で判決が出ている。公有水面埋立法では、埋立免許の効力が消滅した場合に民間の事業の場合は原状回復義務が明記されているが、国については規定がない。そのことが争われたが「埋立工事の竣工後に埋立承認の効力が消滅した場合も、国は原状回復義務を負う」とされている。不承認が確定すれば、辺野古側も原状回復義務が生じる。

#### ◆不承認で遺骨混りの土砂問題はなるのか？

当初の計画では1700万 $\text{m}^3$ の土砂の7割を県外から調達し、県内は北部・国頭のみであった。変更申請では、九州4県からの土砂調達可能量も記載されているが、私の考えでは予備的なもので、ほとんどを県内調達できると強調されていた。糸満・八重瀬から必要量の倍の調達が可能とされていた。具志堅隆松さんが、南部地区の土砂には遺骨が混ざっていると問題提起して、大きな問題になった。

国は、「あくまで土砂調達可能地であって決まっていない。契約をしてから決まる。仮に南部地区から行われるとしても、採石業者において、ご遺骨に

配慮した採取が行われる」と逃げてきた。南部の土砂採取について、県は何度か質問をしてきたが、騒音や粉じんなどで遺骨の問題には直接的に触れていなかった。

不承認の理由に遺骨の問題は含まれていないが、知事は記者会見で「先の大戦で犠牲となられたご遺骨がまだまだ残されている場所から採取された土砂が基地建設のための埋立工事に用いられる可能性が示されており、このことは既存の法制度の枠組みを超えて国民全体の問題として受け止めないといけない。政府はまだ何も決まっていないと説明するだけで、明確に否定されていないが、悲惨な戦争を体験した県民、国民や遺族の思いを傷つける行為は絶対にあってはならないことだ。人道上許されるはずもない」とコメントした。

ただし、「土砂に関する図書」の変更は、公有水面埋立法に基づく知事の承認事項ではなく、埋立承認の際の留意事項による知事の承認事項なので、防衛局が強行するおそれは否定できない。

#### ◆これからの課題

今回の知事の不承認を支持し、国の対応措置を許さないうねりを全国から作っていききたい。さらに監視行動、阻止行動をしている地点がシュワブ、本部塩川港、安和栈橋と拡がっており、美謝川切替工事も始まる。現地への結集を呼び掛けたい。1月の名護市長選、なんとしても勝利をする。美謝川切替工事を協議不要とするようないいかげんな市政を止めることが必要。参議院選もそうですし、秋の知事選は絶対に勝ち抜かなければならない。(21.12.15記)

12月2日に名古屋で行われた講演の要旨を、末田がまとめたものです。

記録動画がYoutubeで公開されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=Z-b0cRk-ABw>

Youtube上で「北上田毅 renmin」で検索





## 議員の奮闘で全会一致の採択に

「辺野古土砂ストップ北九州」事務局長 八記久美子

### ■採決では心臓がドキドキ



北九州市議会 12 月議会で、「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を採取しないことを求める意見書」が、全会一致で採択されました。

本会議の最終日、世話人 4 人で傍聴に行きました。採択されることは事前に知らされていましたが、採決の時は心臓がドキドキ。全会一致で採択された時は、ホットしてその後嬉しさがこみ上げてきました。一緒に参加した他の世話人も同じだったと思います。この間の取り組みを報告します。

### ■遺族会の連絡先を求め

今年 8 月の当会総会で私たちは、「遺骨の混入する土砂を辺野古に使わない意見書」提出を北九州市議会に求めることを決めました。早速請願書を作り、全会派に「紹介議員のお願い」に回りましたが、なってくれたのは 3 党派だけで、人数は 57 人中 10 人。これでは議会で否決されてしまいます。

私たちは遺族会の力をお借りしたいと、ネットで連絡先を検索しましたが、ヒットしません。それで、福岡県遺族連合会を訪問し、「これこれしかじかなので、北九州の遺族会の連絡先を教えてください」とお願いしました。しかし、「個人情報だし、遺族にもいろいろな考え方の人がいる」という事で、北九州市の連絡先を知ることはできませんでした。

### ■個人的には反応がいいが…

そうこうするうちに「総務財政委員会」での口頭陳情の日がやって来ました。会派の意見とは別に、個人的には積極的な意見を述べてくれる議員や、ずっとうなずいている議員。事前に私たちの話を聞いてくれる議員もおられました。結果は継続審議に。

また、北九州遺族会には、関係する市職員が連絡を取ってくれました。おかげで、遺族会の方の考え

を知ることは出来ましたが、協力は得られませんでした。私たちの運動は行き詰ってしまいました。

### ■予想もしていなかった展開に

そんな中、「総務財政委員会」副委員長が、議員提案として取り上げ、各会派の調整に回ってくれました。その結果、全会派が賛同し、議会で全会一致の採択となりました。予想していなかった展開です。

意見書の項目は「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を採取しないこと」「戦没者の遺骨収集の促進に関する法律」を遵守し、政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施することの 2 点です。私たちの趣旨文には、「辺野古の埋め立てに使用しないこと」の文字が入っていましたが、採択された趣旨文の中には「辺野古」のへの字も出てきません。そうでないと自民党が賛成しなかったのだろうと想像します。なお、私たちの請願には、1229 筆の署名が寄せられました。



「嬉しいね」と、喜び合う世話人

### ■この声広がれ

今年 9 月。大阪市議会が政令指定都市として最初に意見書提出を採択しました。その時、自民党・市民クラブ大阪市議団の北野妙子幹事長は、「戦没者の遺骨が混じった土を使う事は許されないと考えた。辺野古の新基地には賛成しているが、今回の意見書は基地問題に言及していない」と、賛成の理由を述べています。この声が、全国の議会に広がってほしいものです。（21.12.16 記）





# 玉城知事の「不承認」に呼応し、緊急チラシまき

辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会 柴田 天津雄

11月26日、前日の玉城知事の「不承認」決定が報道されたのを受けて、緊急行動を行いました。夕方5時半から約1時間、津駅前には集結し、急いで作成したチラシを帰宅途中の市民に配布しました。総勢20人ほど。皆、辺野古ブルーにちなんで、青色のものを身にまっています。青い帽子、青い腕章、青色のシャツと様々身に着けた人など。青地の横断幕は「不承認 国は調査不足、工事中止を！」を大書して、チラシ撒き部隊の先頭に掲げました。



ハンドマイクは玉城知事が「不承認」を決定したことを、駅前広場いっぱい響き渡る音量で発していました。そして、政府が辺野古海岸に広大な軟弱地盤があることを隠し続け、市民の追及で発覚すると大量の土砂で埋め立て、地盤改良をすと言い出し、沖縄県知事に設計変更の承認を申請したこと、を伝えました。しかし、最深90mに及ぶ軟弱地盤があり、これを埋め立てる明確な計画が立てられないこと、大量の土砂投入は辺野古海岸に隣接する海洋生物の豊富な大浦湾の海を殺してしまうことなどを丁寧に説明していました。玉城知事の「不承認」の決定はこれらを踏まえたものだと訴えました。

チラシでは”沖縄県知事、辺野古基地建設に「不承認」”、”玉城知事の「不承認」決定を応援しよう！”と題して、政府の基地建設がいかによろしく、基地建設の強行がいかによろしく沖縄の海を汚染するか、玉城知事の「不承認」で、基地建設を止められ

る道が開かれてきたこと、玉城知事の「不承認」を支持し、応援していくことを訴えました。



夕方の駅前、家に帰る人たちには、「不承認」を知っている人もいて、「頑張ってください」と声をかけてくれた人もいましたが、まだまだ、辺野古基地建設のことを知らない人も多くいます。私たちは毎月、三重県内の主要駅前で共同してチラシ撒きなどのキャンペーンをもう5年間しています。12月は14日に四日市駅前キャンペーンを行います。まだまだ小さいですが、地道に継続して運動を盛り上げていこうと話しています。(21.12.13記)

## 遺骨土砂150議会「中止を」

### 国採取に意見書全国で拡大

沖繩戦没者の遺骨が採る沖繩本島南部の土砂採取中止を求める意見書を可決した地方議会が、16日時点で全国で150となった。沖繩戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤ」の具志堅隆松代表らが集計した。具志堅氏は「全国の問題への理解が広がっている。ここまて来たら、国も無視できず、断念を表明してほしい」と語る。支持者によると、可決した150議会の内訳は、県外123、県内27。最近山形県山形市、庄内町、埼玉県羽生市、京都府京都市、長岡京市、大阪府豊中市などから可決の連絡があったという。具志堅氏は本紙の取材

# 「遺骨を含む土砂を埋立て等に使用しないことを求める」請願 宇城市議会、全会一致で採択

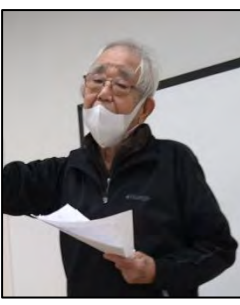
辺野古土砂搬出反対うきの会 鈴木慶子



2021年12月14日、宇城市議会本会議で「沖縄戦の戦没者の遺骨を含む土砂を埋め立て等に使用しないことを求める」請願が全会一致で採択されました。

請願は辺野古土砂搬出反対うきの会（以下うきの会）の会員：篠原 徹さんが9月議会に向けて2021年8月提出し、継続審議ののち、12月議会で採択されたものです。

本会議に先立ち12月8日に開かれた常任委員会での篠原さんの発言要旨を紹介します。



私の父は昭和18年の秋、知覧基地から戦闘機で沖縄の小禄基地に飛び、飛行場の拡張工事に従事したと聞いています。昭和20年秋、戦死公報が届きました。「6月23日首里北方16キロにおいて

名誉の戦死」と書かれていました。当時小学4年生だった私は2回ほど母と遺骨の引き取りに熊本市内まで車で行きました。1回目は白木の位牌だけ、2回目は高熱で焼けた石ころだけでした。

父の最後の地を知りたくて、沖縄には3度行きました。1度目は母と一緒に。情報があまりにも少なく最後の場所はわかりませんでした。

2度目は家族と行きました。首里に最後の司令部がおかれたことはわかりましたが、父の部隊がどこ

へ行ったのかわかりませんでした。首里の地下壕が人の血の池になっていたと聞きました。

戦後75年を超えた今も「戦没者の遺骨」収集は細々ながら続いています。しかしまだ犠牲者の半数を超える遺骨は沖縄の地に埋まっています。

私は厚生省にDNA鑑定を依頼しています。

私にとって、戦後はまだ終わっていないのです。

どうか人道的、倫理的な観点から沖縄戦の20万人を超える犠牲者の霊に思いを馳せて頂き、この度の請願を「国」に上申頂くようお願い致します。



採択されたという報告を聞いて、篠原さんは「私的なことを認めてくれた」と涙ぐまれていました。私たち「うきの会」の会員も感動を禁じえませんでした。熊本の中でも農村地帯である宇城市は、とても保守的な地域です。保守的な地域で請願が採択されたことは、「これは人道上の問題である」という具志堅さんの指摘が正しいということです。

次は熊本県議会です。（21.12.16 記）



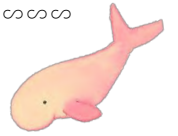
左のポスターは、ダンサーの牧瀬 茜さんをお願いして作成してもらったものです。茜さんはうきの会の1号会員です。





# 鹿児島の旅～総会開催地の視察に同行しました

辺野古土砂全協会員 牧瀬 茜



阿部悦子さん大谷正穂さんに同行し、次回総会開催地の視察で鹿児島を訪れました。設計変更申請で、鹿児島は本土側だけで新たに28ヶ所もの土砂搬出予定地がリストアップされています。春に続き今回も、鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島昭広さんにご案内頂きました。

10月20日、種子島へ。沖合に見える馬毛島は、島をまるごと軍事基地にしてしまう計画にさらされています。馬毛島への米軍施設に反対する市民団体連絡会、そして衆院選前で忙しくしていた米永あつこさんの選対事務所を訪れお話を伺いました。朝から深夜3時まで行うという大騒音の米軍FCLP訓練の拠点、自衛隊基地、軍港……政府防衛省は地元と話し合わず、その声を無視し、ときには欺き軍事化を強行しようとしています。森林法に違反して馬毛島の自然を破壊してきた民間会社から、法外な金額で島の大部分を買収し、ボーリング調査を始めました。

その晩、宿泊させていただいた宿の主人の日高さんは漁師で、馬毛島近海でカツオ漁をしているそうです。左右に竿をおろし水深20-40m位のところで船をゆっくり走らせてカツオなどを釣るのだそう。「馬毛島が基地になってしまったらいい漁場には近付けないようになってしまう」と日高さん。また、埋め立てて巨大な軍港を作ろうという場所はトコブシが多く獲れるところだそうで、ここでも豊かな海が今まさに奪われようとしています。

「漁場を守るべき漁協が、漁場を壊すことに手を貸してしまうなんて……」日高さんはため息をつきました。

まず漁協が買収され、それでも当初は、この辺りの漁師80人ほどのうち半数以上が基地建設に反対だったそうですが、魚が減り漁業が厳しくなる中、お金で切り崩され、今は反対する漁師は10~20人ほどになってしまったそうです。馬毛島に暮らしたこともある日高さんは、軍事化に強く反対、漁場を奪われる漁師として裁判も起こし闘われています。

「推進派の船が赤い旗を掲げていて漁港は異様な光景です」と聞き、翌朝6時頃に悦子さんと漁港に行ってみると、確かに停泊する漁船の多くが赤（濃いピンク）の「鹿児島」と印刷された旗を掲げています。漁から帰って水揚げしている船があり、声を掛けてみました。籠の中には採れたてのキビナゴ、こ

の日はとても少なかったそうです。キビナゴ漁は、深夜1~2時に出て早朝帰ってくるとのこと。その船も赤い旗を掲げているので尋ねると、申請して警戒船の許可を取った船の印だとの返事でした。言われた日に馬毛島に近付く船の監視をする——「そこは危ないから入らないで下さい」と注意する仕事だといひます。また、防衛省や工事関係者を馬毛島に送迎する海上タクシーの仕事もしているとのこと。後から聞いた話では、警戒船が1日5万、海上タクシーは往復8万2千円、内いくらかを漁協に納めるのだそうです。

弱味に付込み国策に取り込んでいく。民意や地方自治を無視して強行し無力感を味あわせて諦めさせようとする。心から軍事基地に賛成している人がどれほどいるのでしょうか……。国策に襲い掛かれた地域の人々は、容認、反対、推進どの立場でも苦いものを背負わされ生きているのだらうと想像しました。

西之表港から鹿児島本港へ。21日と22日は、総会で訪れる場所を検討しながら採石場と搬出港を見てまわりました。元の景色がどうだったのか想像もつかないほど大きく削りとられた山や、底深く掘り下げられた山も見ました。ある採石場の従業員さんは「辺野古の話は聞いたことあるけれど、どこに持って行くかは組合が決めることだから……」と言いました。



10月22日、土砂搬出予定港となっている加治木港にて右から阿部さん、大谷さん、そして私（撮影：磨島昭広さん）

この採石場で働く人が基地建設に協力する仕事をするようになるかもしれない。種子島で赤い旗を掲げる漁船も、そして税金を払う私たちもまた、国策によって戦争の準備と環境を破壊する軍事基地の建設に加担させられてしまう身です。九州……馬毛島、奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、与那国島……琉球弧で基地建設と軍事拡大が続いています。そうではない、戦争をしないための外交をしてほしい、そして、何よりも命を大切にす国にしたいです。（21.12.16 記）



## 沖縄南部の土砂搬出地との連携を!

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子



12月初め沖縄に行きました。「カヌーチーム」の鈴木公子さんのお世話で大荒れだった大浦湾で、船から埋立てが進む辺野古の様子を見ることが出来ました。「本部島ぐるみ会議」の阿波根美奈子さん、山城博治さんの案内で安和栈橋と塩川港を訪ね、知事の承認後も相変わらず土砂積み出しが行われ、抗議活動が続いていると聞きました。塩川港沖合では、軽石が帯になって流れていました。

辺野古ゲート前では、「島ぐるみ会議名護」の浦島悦子さんのリードで抗議行動がなされており、私も土砂全協の来年の鹿児島総会や巨大軍港化計画が進む馬毛島の話などしました。12月3日の夜には県庁前でデニー知事の「承認を支持する」500人集会とデモが、翌4日には辺野古テント前でデニー知事出席のもと800人の集会が行われて、知事の演説が人々を勇気づけていました。

6日には「糸満島ぐるみ会議」の金城成憲さんのお世話で、糸満の遺骨が発見された現場に行き、先の戦争末期の説明を受けました。平たく長く続く糸満米須の丘陵の向こう側の海からひっきりなしに飛んで来る米軍の艦砲射撃を避け、丘陵のこちら側に逃げて来た大勢の人々が集まった場所沢山の人が命を落とした場所です。

その丘陵の一角に、戦後放置されていた遺骨が眠る「魂魄の塔」があり、すぐ近くに「熊野鉦山」の看板が立っています。そこが、昨年防衛局が設計変更で県内からの土砂調達を発表したことを受け、業者が樹を切り石灰岩採掘の準備を始めたところです。その小高い山の向こうは1万余柱の戦没者(南方での戦没者を含む)を祀る「東京の塔」と第44回全国植樹祭会場となった「平和創造の森公園」があります。静かで広大ともいえる「公園」の佇まいの中にある塔のすぐ向こうに「熊野鉦山」が透けて見えました。予定通り石灰岩採掘が行われれば、「東京の塔」は無事では見られないと見てとれました。

金城さんは、ここで具志堅さんが遺骨収集をしている際に業者の「動き」を察知されたこと、「ハブが生息するような場所で、ひとりで39年もの間命を落とさずに来られた具志堅さんの存在は奇跡としか言いようがない」と話されました。

南部のうち土砂搬出予定地は、糸満市と八重瀬町です。八重瀬町議の神谷信夫さんが八重瀬町の鉦山を案内してくれました。地下深く広大に掘り進んで大きな穴がいくつも無残に開いています。この跡地は事業者が、いずれ土砂で埋め戻すと言っているが、「どう考えても現実的ではなく、むしろ産廃など持ち込みなども懸念される」と神谷さん。また現場が人々の生活空間から近いことも問題だと思いました。



八重瀬町の採石場。周囲にはほかにも多くの採石場がある

糸満市の崎山正美さんによると、「かつて石灰岩採掘跡に産廃が投棄され水源地が汚染された、米軍の廃棄物からのPCPが水道水源を汚染し、被害が学校給食センターにまで及んだことがある」、また「石灰岩は地下水の貯水層、その破壊はこの地域の地下ダムの破壊となる」と教えて頂きました。

豊見城市の市議の新垣龍治、伊敷光寿議員らとも意見交換し、「目指す目標は一つ!」と言って下さいました。私たち土砂全協は今後の運動の連携に向けて、学習を深めていきたいと思いました。(21.12.16記 写真:牧瀬 茜)



12月5日、魂魄の塔近くの菩提樹の前で南部の島ぐるみの方々と。「遺骨混じりの土も故郷の土も戦争に使わせない」

編集部注 沖縄県南部の土砂採取予定地は、鉦山法に基づく石灰岩採掘のための「鉦山」。採石法に基づく「採石場」と法的な位置が異なる

# 基地問題こそ最大の争点だ！

二二年一月二三日は、沖縄・名護市長選の投票日。

「基地問題は争点にならない」（菅前首相）なんて、トンデモナイ！

今月初めに来県した菅義偉前首相が、来年1月23日に投票される名護市長選で「基地問題は争点にならない」との認識を示したという（本紙6日付）。私たちが名護市民が、降つて湧いた新基地建設問題に翻弄されて約25年、四半世紀にもなろうとしている。

琉球新報 2021年12月9日

1997年12月21日の名護市民投票で「新基地NO」の民意をはっきり示したにもかかわらず、国はありつたけの権力とカネで地域を分断し、コミュニティを破壊し、地方自治を踏みしじり、名護市の行政と経済をゆがめつつ、強引に基地を押し込んできた。その張本人がよくも言えたものだ、名護市民をどこまでバカにするのかと怒りが湧い



浦島 悦子

## 論壇

私は、基地問題は沖縄社会全体の上に覆いかぶさる暗雲のようなものだと考えている。基地被害は騒音や事件・事故、環境破壊・汚染だけにとどまらない。日本政府は、沖縄を永遠に基地の島にしておきたい米国のために自立経済を阻み、

た。

私は、基地問題は沖縄社会全体の上に覆いかぶさる暗雲のようなものだと考えている。

き、そのあまりの露骨さにあきれたものだ。なぜ私たちは、望んでもいない基地を押し付けられ、反対をねじ伏せるための「アメとムチ」に心身を疲弊させられ、性悪な交付金という麻薬に自治や健全財政をむしばまれなければならないのか？！

### 菅氏の名護市長選発言へ

## 基地こそ最大の争点だ

そのゆがみは教育・福祉・医療を含め、県民生活全体に及んでいる。この暗雲を取り除かない限り、沖縄社会の健全な発展はない。名護市では特にそれがよく見える。新基地建設への協力の都合に応じて国が支給する「米軍再編交付金」が創設された

「基地は争点にならない」というのも、「基地は（数多くある）争点の一つ」というのも、はたまた「基地が経済か」という問題の立て方も、すべて間違っている。現在ある基地、これから造られようとしている基地を含め、基地は諸悪の根源だ。戦争に使われるから、殺人や

破壊のためのものだから、というのほもちろんだが、基地を造り、存続させるためのあらゆる施策が政治・経済・社会のすべてをゆがめ、むしばむという意味で、基地（問題）こそが基本的かつ最大の争点になるべきだと思つう。

子や孫たちに基地という負の財産を残したくないという一心で、私たちは新基地建設に反対を続けてきた。

私たちの上に覆いかぶさる暗雲を取り除き、どこまでも広がる青い空と輝く太陽の下で子どもたちが伸び伸びと育ってほしい。

太古の昔からウヤファーフジを育ててくれた恵み豊かな海と山をこそ、子や孫たちに手渡していきたい。それが私たち大人の責任だ。

（名護市、73歳）



沖縄からの便り

《連載 No.15》

いちやりば  
ちよーでー

## デニー知事の 設計変更「不承認」を支持し、 名護市長選勝利を!!

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子



11月25日、玉城デニー知事は、沖縄防衛局による辺野古新基地建設のための設計変更承認申請（脆弱地盤改良工事等）について

「不承認」の判断を下し、同局に通知した。昨年4月、県に提出されてから1年半、私たち県民、そして沖縄に心を寄せる全国の人々が、一日千秋の思いで待っていた判断だ。

「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は翌26日昼休み、県庁前で、これを支持する緊急集会、12月3日夜には同じく県庁前での集会と国際通りデモ行進（参加500人）を行い、辺野古ゲート前の座り込み抗議行動でも連日、「知事の不承認を支持するぞ!! 工事を即刻中止せよ!!」のシュプレヒコールが響いた。4日には、コロナ禍で休止されていたゲート前県民大行動（毎月第1土曜）が1年2か月ぶりに開催された。デニー知事も駆けつけ、不承認判断の根拠や「新基地を自ら提供しない」決意を述べ、800人の参加者の熱烈な支持を受けた。

これに対し国＝沖縄防衛局は早くも12月7日、行政不服審査法による審査請求（不承認の取り消し）を国土交通大臣に行った。2018年、沖縄県の埋め立て承認撤回を取り消した時と同じ手口だ。当時、行政の不当な処分に対する国民（私人）の権利救済のための法律を国家権力が悪用・濫用するものであり、新基地建設を進める国の機関同士が申請と裁決を行う（右手と左手が握手する）出来レースだと、全国の行政学者や法律関係者からごうごうたる非難を浴びた手法を、再び使ったのだ。

国の対抗手段は県も県民も織り込み済みで、また同じことが繰り返されるのかと、うんざりするが、しかし、全国知事会が地方自治を脅かすものと懸念を示しているように、これは「沖縄の問題」

ではない。国の「やりたい放題」を許せば「法治国家」は崩壊する。司法の在り方も含め、全国的課題として取り組む必要があると思う。

わが名護市は、来年1月23日に投票される名護市長選の真っ最中だ。先の衆議院選で私たち沖縄3区は痛い敗北を喫し、「安倍元首相の秘蔵っ子」と言われる自民党の島尻安伊子氏の返り咲きを許してしまった。名護市でも、オール沖縄会議が推した現職・屋良朝博さんに1500票の差をつけられた。この勢いで自公政権は、今度こそ名護市民の「新基地反対の民意」の息の根を止めようと攻勢を強めている。

衆議院選の翌朝、早速、名護の島尻事務所は渡具知武豊（現市長）事務所に看板を付け替えた。12月5日に行われた同選挙事務所開きには菅義偉前首相や島尻安伊子衆院議員が駆け付け、また辺野古周辺3区の区長とも面談するなどテコ入れを行った。

「官邸のロボット」と揶揄される渡具知市長は、就任以来一貫して基地問題には触れず、誰に何を聞かれても「国と県の訴訟の推移を見守る」の一点張り。渡具知氏に対抗する市長選の予定候補者である岸本洋平市議が、「当該市長として、市民に対してあまりにも無責任だ」と9月・12月市議会で厳しく問い詰めたが、同じ答弁を繰り返すばかり。

2010年からの2期8年、「海にも陸にも基地を造らせない」公約を断固として貫き、国から「米軍再編交付金」を切られても、市職員や市民と一体となった努力で名護市を健全財政に戻すとともに財政規模も大幅に増やしてきた稲嶺進前市長を、4年前、私たちの力不足で落選させてしまった悔いはあまりにも大きい。この悔しさをバネに、若きリーダー・岸本洋平氏を先頭に、何としても名護市政を市民の側に取り戻していきたい!! （21.12.15 記）



# 辺野古土砂全協 第9回総会

## 2022年5月28日(土)～29日(日)、鹿児島市で開催

鹿児島県では今、馬毛島の米軍訓練基地計画、そして鹿児島県全域からの辺野古埋立て用土砂の大量採取という暴挙に立ち向かっています。緊迫した中、「鹿児島に米軍はいらない鹿児島の会」の皆様のご協力で、第9回総会は5月28～29日、鹿児島市で開催します。ぜひご参加ください。

総会は以下のような日程・プログラム等を計画しています。

- ◆ 28日(一日目) 13:30～ 集会 16:30～ 総会 18:30～ 懇親会  
会場 (宿泊も含めてすべて「マリンパレスかごしま」)
  - ◆ 29日(二日目) 08:00～ 鹿児島県薩摩半島採石場・積出港等視察(大型バス利用)
  - ◆ 30～31日(三・四日目) オプション・ツアー種子島・馬毛島視察(悪天候の場合は中止あり)
- \* コロナ感染の先行きは不透明ですが、万全の対策で開催を目指します。詳細はHP上、または次号でお知らせする予定です。コロナ感染再拡大の恐れが生じた場合、リモート開催となると考えています。

### 第9回総会 in 鹿児島の参加申込について…

個人会員で総会参加ご希望の方は、一月以降HP上に「参加申込書」をアップしますのでご利用下さい。お問い合わせは下記連絡先・阿部悦子までお願いします。

なお、種子島での宿泊、馬毛島視察用漁船を、防衛局や工事関係者より早く予約する必要あるため、締め切りは2月28日(月)とします。申込先・諸費用などは参加申込書に記載しています。ご理解のうえよろしく申し上げます。ご理解のうえご協力をお願いします。

※ 団体加盟の方は、団体から申し込み用紙をお受け取り下さい。

### 編集後記

今年も「コロナ禍」に翻弄された一年でした。私は体調不良もありほぼ巣ごもり状態で過ごし、辺野古はじめ各地に現地に駆けつけることもできない一年でもありました。一方、具志堅隆松さんらのお働きで、南部の遺骨土砂の採取中止を求める意見書が、全国150議会で可決(12月16日現在)されたとのこと。 「土砂全協」関連の自治体でも、北九州市、宇城市(熊本県)、砥部町(愛媛県)が最近可決されましたので、運動は全国に広がっている状況だと思います。私たちも各自治体でさらなる努力を続けたいと思います。巣籠もり状態で事務局をなんとか維持していますが、全く面識もない多くの市民の皆さんから寄せられる会費・カンパの振込みに、「私たちの活動への信頼の証」と元気を頂いています。感謝します。(松本)

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 21》 2021年12月20日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_etsuko@yahoo.co.jp  
大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com  
編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp  
…八記久美子(辺野古土砂ストップ北九州) kanpanerura888k@gmail.com

HPアドレス…<http://stopphenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 Tel・fax 086-243-2927  
連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel 090-3783-8332  
振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会